



百花繚乱 ~ 伝えたい話 ~

今、校長室前の廊下には、3年生が2年生の時に美術の授業で制作した絵が飾られています。この絵は、生徒一人一人が考えたテーマを想像上の花々で構成した作品です。テーマは「雨」「光」「初夏」「海の花」「道端の宝石」「人の心」「優しさ」など、多岐に渡ります。どれも個性的で、魅力的な作品ばかりです。

この作品を飾るための掲示板は、技術工作クラブにお願いして製作してもらいました。そして、題字となる「百花繚乱」の文字（3枚）は書道クラブの手によるものです。どちらのクラブの生徒たちも快く応じてくれました。おかげで校長室と事務室の間の少し暗くなっている廊下が、見違えるように明るくなりました。

特に、技術工作クラブの生徒たちはこれまでもすべての教室に実物投影機の収納棚を製作して設置したり、演劇部で使う大道具の製作に協力したりと、様々な場面で活躍してきました。

昨年も、姉妹都市である中国の西安市の中学校に寄贈するために美術部が制作した幅5mを超える大作を職員室前に展示したり（→[校長通信第10号](#)）、「3年生を送る会」に向けて美術部が制作した巨大な作品2枚を職員玄関の階段の吹き抜けになっているところにつり下げたりと、大活躍でした。

こうした取り組みのおかげで、生徒の作品や活動の様子がわかるものが少しずつ多くなり、校内に温かな雰囲気を感じられるようになってきているのだと思います。全校生徒一人一人が、それぞれ自分にできることをやることで、学校は少しずつ変わっていくのでしょうか。

実は、美術部の巨大な作品2枚が玄関ホールに無事吊り下げられた後、美術部員からぜひ技術工作クラブにお礼を言いたい、という意見が出てきて、3月下旬に実現しました。下の写真がその時の様子です。右側に美術部員、左側に技術工作クラブのメンバーがいて、部長の栗田幸人君へ美術部部長の佐久間結希さんが代表してお礼の言葉を言いました。それは、

「誰かのために何かをしたい」という思いが、少しずつ何かを変えていく、ということをあらためて感じさせられた出来事でした。＜大切なのは自分の得意な分野で頑張ること。＞それはきっと、子供たちみんなが願っていることでもあります。7月の三者面談で学校においでの際は、校内の掲示物や作品を是非ご覧になってほしいと思います。

